令和２年７月１７日

今日のシライ中

白井の愉快な仲間たち　　VOl.14

ホタルガ

優雅な名前ですねぇ、「ホタルガ」。どんな蛾でしょう？想像してみてください。お尻が光るのかな？いえいえ、苦手でない人は、画像で見てください。漆黒の羽に、白のライン・小ぶりの赤い頭。長く、緩やかなラインで優美な弧を描く触覚。この美しい姿をした蛾は、昨年、白井中の１階廊下で発見されました！芸術部の皆さんが作った白井中の図鑑『白井の愉快な仲間たち』にも写真と、説明が載っています。

さて、この蛾の名前の由来となっている「ホタル」ですが、実は、「ホタル」には毒があり、鳥は食べないといわれています。だから、あんなに派手にピカピカしていても大丈夫なのでしょうね。その「ホタル」に擬態（ぎたい　とはどんなことをいうのでしょう？調べてみてね。ちなみに私は、枯葉に擬態する「アケビコノハ」という蛾が好きです。）することで、敵から食べられないようにしているのでは？ともいわれますが、活動時間帯が全く異なるのでこの説は眉唾物（まゆつばもの・・・「眉」も「唾」もわかりますよね。では、この言葉の意味は何でしょう？調べてみてください。語源も面白いですよ。）です。

さて、成虫になった「ホタルガ」に毒はないのですが、幼虫には毒があるので、触ってはいけません。「黒い体の側線に黄色のライン」という姿で、いかにも危険！と発信しているので、大丈夫だと思いますが。（「警戒色」です。この手の警戒色で有名な虫は？・・・スズメバチです。）分泌物に毒があり、かぶれてしまいます。

さて、おまけです。古典にもよく登場する「蛍」ですが、幼虫の食性は肉食です。巻貝や、ミミズなどを食べます。一方、大部分の成虫は口が退化しているので、何かを食べることはありません。ただ、わずかに、小さな虫などを食べる種類もいます。「ホタル」は種ごとに、光るリズム、サイクルが決まっていて、それを頼りに同じ種の相手を見つけるようにできています。ところが、そのシステムを悪用し、他の種のホタルの光るサイクルを上手に真似して騙し、おびき寄せるホタルのメスもいます。あわれ、おびき寄せられたオスは・・・。ご想像にお任せします。いずれにしても、メスは栄養を摂取することが大切なので必死です。これは、卵を産むための作戦なのです。

『夏は夜。月の頃はさらなり。闇もなほ、蛍のおほく飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて、行くもをかし。雨など降るも、をかし。』さぁ、誰の、なんという作品の、一節でしょう？　ヒント　小学校でも学習しましたよ！答えは・・・

「清少納言」の「枕草子」です。特に、２年生の皆さん！大丈夫ですか？